

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

9

September  
2023

山形県中小企業家同友会

月刊 同友

# やまがた



役員研修会第1講



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす  
中小企業経営者の全国組織

2023年度スローガン

人を生かす経営の実践で

新時代にチャレンジしよう

# 同友会運動と企業経営を 不離一体として発展させよう

6月19日、7月24日の二回にわたり、TISカンファレンスセンターにおいて2023年度役員研修会が開催されました。同友会の運動を進めるリーダーとして、同友会らしい役員の役割を学び、同友会運動と企業経営を不離一体として発展できる力を養うことを目的に行われ、両日合わせて74名が会場に集い、共に熱く学びあいました。

6月19日に開催された第1講は、山形同友会代表理事の後藤智樹氏（寒河江物流(株) 代表取締役社長）が講師を務め、「同友会運動と企業経営は不離一体～同友会で何を学び、どう実践してきたか～」と題して講義を行いました。

後藤氏は、社員不信や他責思考に陥っていた頃に同友会に入会し、「経営指針をつくる会」を受講すると自責思考に考え方が変化。同友会で学び続けながら「運送業者らしくない会社づくり」を始めました。設備投資や採用、品質向上に取り組み、業績向上と同時に社員数も増加。温度管理運送、倉庫、荷役と事業領域を拡大し、現在は自社を「物流価値創造企業」と定義。自社のやるべき仕事が明確になり、価値を最大化する物流を提案することで利益率も向上しています。

自身も同友会で支部長、理事、副代表理事などを歴任し、2022年には代表理事に就任。当初は悩みましたが、「代表理事にふさわしい企業を作ろう」と決意して引き受けています。

後藤氏は「同友会の役員は大変ではあるが、企業経営に生かせる役得ばかり。同友会の学びを広めながら企業経営に邁進していただきたい」とまとめました。

グループ討論は、「役員として何を学び、どう実践してきたか？」をテーマとして、活発な意見交換を行いました。

参加者のアンケートでは「不離一体で役員と経営者を実践する姿を具体的に知ることができた」「学びの実践こそが会社の発展につながる」といった感想が寄せられました。

続く第2講は、中小企業家同友会全国協議会 幹事長 中山英敬氏（(株)ヒューマンライフ 代表取締役）が講師を



を務め、「同友会役員の役割と使命」をテーマに講義を行いました。

中山氏は、同友会が過去の難局を乗り越えた会員企業の実践を教訓化していることに触れ、自社の事例も報告。コロナ禍に際し雇用を守り、経営指針を見直し、社員の声

を基に開発した新製品で市場を創造。困難な状況下でも労使の信頼関係が確立されていれば、社員の主体性は更に発揮されると気づいたといえます。

また、同友会の地域づくりについても、金融アセスメント法制定運動、中小企業憲章の閣議決定や中小企業振興基本条例の広がり等をあげ、実践例として福岡同友会が田川市の高校のキャリア教育に関わっている事例を報告。そして、同友会づくりにおいては事務局が会員とともに運動を担うパートナーかつ主体者であり、運動の経験を蓄積し創造的に広げるセンターの役割を担っていると語りました。

最後に中山氏は、コロナ禍において人間尊重経営がますます求められていることを強調するとともに「経営理念と同友会理念がともに企業に浸透しているか確認すること。多くの会員が地域づくりに関わること。昨年度全国10位の純増数、4位の純増率を達成した山形同友会は、500名のさらに先を目指して頑張っていただきたい」とまとめました。

グループ討論は、「役員として何を学び、どう行動しますか？」をテーマに、活発な意見交換を行いました。

参加者からは、「同友会活動を進めていく意義が確認できた」「同友会活動が企業づくり・地域づくり・同友会づくりへと繋がる活動だと気づかされた」といった感想が寄せられました。

今年度の役員研修会は後藤氏、中山氏両氏の報告から、同友会役員の役割と、同友会運動と不離一体で進める自社経営について学びました。同友会では、会員一人ひとりが辞書の1ページと言われています。新しい会員が増えると新たな価値観や学ぶ視点を増やすことにつながります。同友会で学び、実践し、共に学びあう仲間を増やしながら、自社を、そして地域をより良いものにしてまいりましょう。

# 環境への取り組みが新たな価値を生む



7月25日にTISカンファレンスセンターにおいてJクレジット学習会が開催されました。今回の学習会は地球環境問題に対して自社で何が出来るかを考える機会とすることを目的に開かれ、講師としてソーラーワールド(株) 代表取締役 武内 賢二氏が登壇しました。

武内氏は、世界平和やエネルギー自給について議論する中で『自然エネルギー』が世界的なキーワードになっているとし、「Jクレジットを含め様々な環境政策を点ではなく面として捉え、大きな社会の動きに対し自社ができることを考えなければならぬ」と語ります。そして、今行動することでエネルギーの一次生産者側になれる可能性があり、特に土地を持っている企業やCO<sub>2</sub>を多く排出する事業をしている企業はチャンスがあると強調しました。

Jクレジット制度は、省エネ・再エネ設備の導入や森林管理等における温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認定する制度です。その目的は中小企業や自治体等の省エネ・低炭素投資等を促進してクレジット活用による国内の資金循環を促すことで環境と経済を両立させることにあり、経済産業省・環境省・農林水産省が運営しています。

Jクレジット制度は大きく3つの部門に分かれます。1つ目が省エネ部門です。照明や自動車、大型の機械など、長く使用する製品をエネルギー効率の高いものに交換することで、前の製品を使い続けた場合に比べ削減した排出量が価値になります。

2つ目は再エネ部門です。従来型のエネルギー源から脱却し、再生可能エネルギーを使用することで削減した排出量が価値になります。

そして3つ目が森林・自然環境部門です。海洋・森林などの管理や植樹などによって育った樹木や海洋生物が吸収する温室効果ガスの量が価値になります。

これらの排出削減・吸収量は環境価値となり、Jクレジット制度のもと、カーボンオフセットの取引材料となり

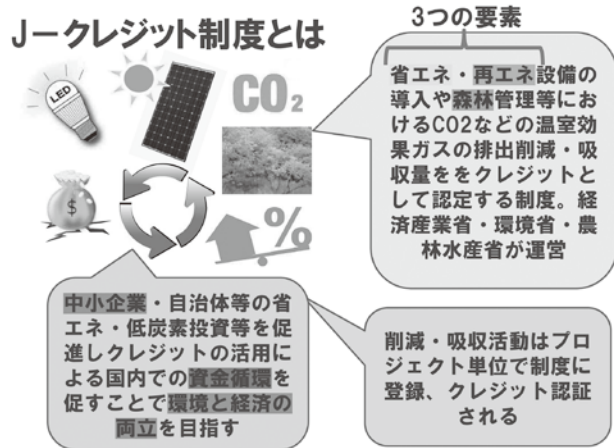
ます。カーボンオフセットとは、削減しきれなかった排出量について、他の排出削減・吸収を実現する活動の実施または他で実現した排出削減・吸収量等を購入することで埋め合わせをするという取り組みです。

Jクレジット制度に登録した企業は温暖化対策に積極的な企業として自社をPRでき、Jクレジット創出者としてクレジットの売却益を得るほか、売買を通じて新たなネットワークを構築することも可能になります。また、Jクレジット制度は購入者としても参画でき、創出者と同様、新たなネットワークづくりや企業PR、商品・サービスの差別化を図ることが可能です。武内氏は制度の活用について「Jクレジット登録の手続きは国から様々な支援や補助があり、計画書の作成をある程度代行してくれるところもあるので、まずはJクレジット制度について調べ、自社で出来ることを検討してほしい」と呼びかけました。

最後に武内氏は「今が良ければ良い、ではなく、私たちは使っているエネルギーについて、文化・文明といった観点から未来を考えるべき。Jクレジットは未来を考えながら各社で新しい価値創造につなげることができると締めくくりました。

菅原社長はまとめとして、温暖化対策は世界的な課題であり、その中で生まれるJクレジットなどの様々な環境政策がビジネスチャンスへとつながることと、大企業は既に温室効果ガスの削減目標を定めており、取引相手を選ぶ一つの基準にしていることを強調し、環境問題への取り組みが急務であると呼びかけました。

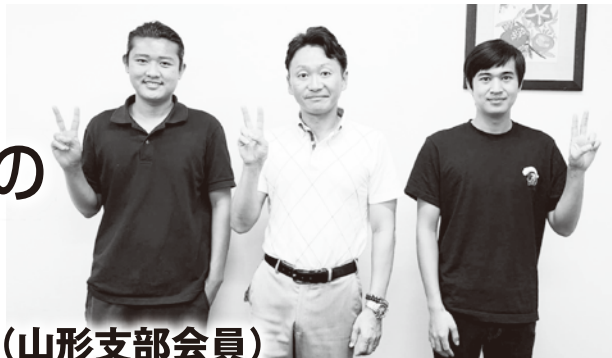
参加者からは「自分たちのような小さな会社でも出来ることがあるのではないかと思った」「ビジネスチャンスとらえて取り組んでいきたい」「Jクレジットなどの環境政策を他人事だと思っている人が多数だと思う。しかし、実際にはもう実践している企業がある。自社でどう取り組むか考える機会になった」との声がありました。



# 企業訪問

## 社員とともに「幸せづくり」の実現を目指して

(株)ダンケ 代表取締役社長 浅野裕幸氏(山形支部会員)



(株)ダンケは「幸せづくり」を事業定義として、山形市で不動産賃貸業および小規模多機能型居宅介護事業所、サービス付き高齢者向け住宅の介護事業、高齢者向け住宅紹介業(居住支援法人)を営んでいます。介護業界では慢性的な人手不足状態がありますが、同社も例外ではなく求人票を出しても応募がないという厳しい状況が続いていました。同社の浅野社長は、コロナ禍を好機と捉え、外国人材の採用を加速的に進めました。

### 人材不足の活路を外国人材の採用に見出して

外国人の労働力を自社に生かせないかと検討を始めたのは2014年のことでした。求人票を出してもなかなか採用につながらない、紹介や派遣で紹介料を払い採用しても短期間でやめてしまい定着しないなど、採用の課題は山積。県内の少子高齢化も進み、介護施設のニーズはますます高まっており、いかに人材を確保し、育てていくかは急務でした。採用と育成の課題解決のため外国人材の受け入れを検討しましたが、資金面や面接に伴う渡航、登録支援機関の選択がハードルとなり、すぐに舵を切ることができませんでした。浅野氏は、今後必ず外国人の労働力は必要になると、然るべき時に備えて情報収集を始めました。

特定技能や技能実習の違いを知ることから始め、数多の支援機関と面談し、費用面はもちろんのこと、受入体制や教育体制について比較検討を繰り返し行いました。2019年、浅野氏は現地で無償教育し、日本に送り出している支援機関と出会い、自社に外国人材を迎え入れることを決断。2020年に入り新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、介護施設は介護崩壊の危機と常に隣り合わせでしたが、オンラインツールの普及により面接をオンラインでできるようになりました。面接のための渡航が不要になることは、外国人材採用を進めるにあたり大きな追い風となりました。

### 学習会で受け入れ風土を醸成

面接は画面越しに、浅野氏だけではなく現場で働く社員も同席して行い、2021年11月にミャンマーからの特定技能外国人2名の採用が決まりました。特定技能外国人は、5年間の勤務の中で介護福祉士の資格取得を目指しています。

一部の社員からは初となる外国人材の受け入れに対し、「物がなくなるのではないか」「ロッカーに鍵をつけてほしい」とネガティブな意見も出されました。浅野氏は採用が決まっすぐに、社内の体制づくりのため勉強会を始めました。

業務の合間を縫って2名ずつ、50名の社員に対し、県内の介護業界の現状と未来を示し、なぜ外国人材が必要なのか、日本に働きに来ようとしているのはどのような人なのか、今採用す

ることで自分たちの働き方がどのように変わるのか懇切丁寧に説明を行いました。本当に人材確保が難しくなってからは、自分たちの業務負担が増えてしまうことが懸念されることも伝えました。

また、外国人材のネガティブな行動の背景には、契約と違う状況下で働かせるなど、会社と経営者側に非があることを説明し、一緒に学び、成長しながら働いていこうと「共育ち」と「協力」を呼びかけました。

全社員への説明には2か月を要しましたが、勉強会を繰り返す中で社内の意識が高まり、否定的な意見は出なくなりました。新型コロナウイルスによる渡航制限やミャンマー国内での内戦の影響も受け、当初の予定よりも遅れて2022年8月から一緒に働くことになりましたが、社員からは「早く来てほしい」「いつごろからか」という声が聞こえるように変化していました。

ミャンマー人スタッフが来県後、浅野氏は町内会や交番などに一緒に赴き、地域の方々とお互いに知り合う機会を設け、双方の安心感づくりにも注力しました。浅野氏は「会社の中で意識を共有するためには種まきが何より重要だ。社員を巻き込むことで一体感が生まれる。そして地域ぐるみで受け入れ態勢をつくることも欠かせない」と語ります。

### やさしさの連鎖と社員の変化

ミャンマー人のスタッフが一緒に働くようになり、既存社員の働く姿勢にも変化が出てきています。ミャンマー人スタッフが常に利用者様の目線に合わせて腰を低く対応する姿を見ては、自身の対応に生かすなど、お互いがお互いのよいところを学び、実践しあう姿も見られるようになりました。またあまり自己表現をしない若手社員にも自ら進んで取組む主体性が見られるようになってきました。文化の違いややり方の違いなど、齟齬が生じることもありますが、外国人材の採用に当たって働く仲間を選んだのは自分だという想いが、共に成長していこうという想いの原点となり、やさしさの連鎖が生まれ、共に働きやすい職場づくりにつながっています。

特定技能外国人は5年間をかけ、介護福祉士の資格を取得した後は、資格を生かし他の職場でも働くことができるようになります。浅野氏は、5年後を見通し、「いかに幸せになってもらうか。ここに来てよかったと思ってほしい。5年後も選んでもらえる会社でありたい」と前向きに語りました。

(株)ダンケでは、来年にも新たな特定技能外国人を受け入れる計画があります。浅野氏は利用者様とご家族はもちろんのこと、地域社会とすべての社員の「幸せづくり」の実現を目指し邁進し続けます。

# 9月例会のご案内

## 山形支部

### 良い会議にしよう！

【ファシリテート力・グループ討論の生かし方について学ぶ例会】

2023.9.14(木) 18:30~21:00

場所：山形テルサ 大会議室&Zoom

山形市双葉町1-2-3 山形テルサ1階 ☎023-646-6677

報告者：ケーズライフコンサルタント(株) 山形支社  
顧問 西村 清氏

あなたの会社の会議は、活発な意見が飛び交い、社員が本音で話せる実りある会議になっているでしょうか？グループ討論が苦手、という声をよく耳にしますが、同友会のグループ討論は何のためにやっているのでしょうか？グループ討論は「学びのシェア」と言われ、職種・年齢・性別や価値観の違う他の参加者の気づきのポイントの共有や自身の学びの復習にもなります。つまり、同友会のグループ討論は、社内会議をいかにすすめるか、いかに社員さんから意見を引き出すかの練習に最適な場でもあるのです！西村氏のこれまでの豊富な経験から、会議の心構え、話しやすい雰囲気づくり、進め方など、情熱をもってご報告いただきます。是非社内の実りある会議づくりにお役立てください！

## 庄内支部

### 「人が輝く職場づくり」を目指して ～障がい者雇用で学んだこと～

2023.9.25(月) 17:30~20:00

場所：公益研修センター 中研修室2&Zoom

酒田市飯森山3-5-1

報告者：(株)サニックス

取締役経営企画部長 大江藤之氏

弊サニックスは経営指針の成文化後、さっそく新卒採用をスタート。ある学校を訪問して紹介されたのは発達障害を持つ学生でした。彼を採用し、研修も無事終えて配属しましたが、現場からは彼に対する不満が噴出。しかし、「サニックスで長く働きたい」という彼の思いに応え、ジョブコーチの支援のもと、社員同士で分担してルール理解の促進やミス防止の取り組みをスタート。同時に、会社としても職場ルールの可視化などを進めると、次第に問題点が改善し、社会人としての責任感も芽生えてきました。

「彼を通じて人材育成の基本を学んだ」「トラブルの原因は自社のスキル不足だった」と振り返る大江氏。障がい者雇用を通じて、認め合い助け合う社風づくりに取り組んだ実践に学びがあります。社員さん、ゲストのご参加も大歓迎！お待ちしております！

## さくらんぼ支部

### 強いものが生き残るのではない。 変革できるものが生き残るのだ！

2023.9.29(金) 15:00~17:30

場所：まなびあテラス 講座室A・B&Zoom

東根市中央南1-7-3 ☎0237-53-0230

皆さんはご自身の経営に満足していますか？従業員不足、売上減少、電気料金の値上げ、戦争、材料不足や値上げなど厳しい環境変化が続いています。目まぐるしく変わるVUCA時代だからこそ、企業変革が求められています。皆さんは、應ずることなく、今の時代の変化を捉えることができているか。外部環境の変化を的確にとらえ、自社の未来を描けているか。和を持って困難に立ち向かう体制は社内できているでしょうか。ダーウィンは「最も強いものが生き残るのではない。唯一生き残るのは、変化できる者である」という言葉を残しています。今まで何とかが経営できてきたからという成り行きまかせや惰性の経営では対応できない世の中になりつつあります。スクラップ&ビルドを繰り返しながら、自社の提供価値を磨き、一方で新たな事業創出に取り組んでいかなければなりません。

経営課題を的確にとらえ、未来を自ら拓くため、自社変革に必要なものとは何か考える機会にしましょう！

## 置賜支部

### 地域と共に生きる伝統ある酒蔵の新たな挑戦

2023.9.28(木) 18:00~20:30

場所：伝国の杜&Zoom

米沢市丸の内1丁目2-1

報告者：(株)小嶋総本店 代表取締役社長 小嶋健市郎氏

株式会社小嶋総本店は安土桃山時代に創業し、米沢の地で豊富な雪解け水と良質なお米で日本酒をつくってきました。国内市場が数量的には縮小し、高級志向と海外輸出が伸びている日本酒業界にあって、小嶋氏は「市場は外が多いが、生産と採用は地元だ」と語ります。地元の米を使用した純米酒へこだわりを持ち、まちづくり活動への協力や酒粕を使った地域内のエネルギー循環など、地域と一体となった数々の取り組みを続けています。

小嶋氏の実践報告から、地域のために自社は何が出来るのかを考え合います。皆様ぜひお誘いあわせの上で参加ください。

## 寒河江支部

### 5Sから始まる社員と会社の成長

2023.9.25(月) 18:30~20:30

場所：寒河江市技術交流プラザ&Zoom

寒河江市中央工業団地153-1

報告者：斎藤マシン工業(株) 代表取締役 中川 健氏

5Sという言葉を知ったことはありますか？5Sは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」という五つを指し示す言葉です。

今回の例会では、5S活動を15年間実践してきた斎藤マシン工業の中川社長に、5S活動が単なる作業環境改善だけではなく、人間力の向上、組織の強化、そして優れた企業文化の構築へと繋がる活動であることを、失敗や成功を交えた実体験に基づいて報告いただきます。皆様ぜひお誘いあわせの上で参加ください。

## 新庄最上支部

### 経営・売上アップに役立つ知的財産の基礎知識

2023.9.26(火) 18:30~20:45

場所：わくわく新庄 会議室&Zoom

新庄市下金沢町15-11

講師：INPIT 山形県知財総合支援窓口 事業責任者 大通 薫氏  
(一般社団法人山形県発明協会 常務理事/事務局長)  
知財支援アドバイザー 山崎 浩氏

この数十年で経営環境は大きく変化しました。需給バランスは逆転し、いいものを作れば売れる時代から、選ばなければ売れない時代になっています。そこで重要なのが、価値を生み出す仕組みやデータといった無形資産、特に知的創造物、ブランド、ノウハウといった「知的財産(知財)」です。知財は他社との差別化や新規事業、ブランディング、事業承継等に活用できる一方で、適切に管理できなければ情報流出や契約トラブル等につながる可能性も。

9月の支部例会では、山形同友会と包括連携・協力協定を締結した(一社)山形県発明協会から、INPIT 山形県知財総合支援窓口 事業責任者の大通氏とアドバイザーの山崎氏をお招きし、知財の基礎知識を学びます。会員企業の社員さん、他支部の方、ゲスト参加も大歓迎！ご参加お待ちしております！

※(独)工業所有権情報・研修館(INPIT)は経済産業省・特許庁が所管する公的機関です。

## 女性部例会

### 「自分を変えたい」から始まる企業変革 ～社員も、お客様も喜ぶ会社を目指して～

2023.9.27(水) 13:30~15:30

場所：同友会事務局&Zoom

報告者：(有)ミートの元気商事 代表取締役 中村明美氏

中村氏は、同友会に2019年に入会し、翌年「第25期経営指針をつくる会」を受講しました。指針づくりを通してがむしゃらに走り続け見えなくなっていた、創業時の想い、お客様への想いに再び出逢い、原点に立ち返ることができたことと語る中村氏。お客様だけが喜ぶ会社ではない、社員も、お客様も喜ぶ会社にしたいと社員への想いも芽生えました。自身と向き合い、理念ができたことで、社員との対話生まれ、理念に照らして判断できるように変わりました。中村氏の報告から、「何のために仕事をしているのか」、皆さん自身の原点を改めて見つめなおす機会にしましょう。皆様のご参加をお待ちしています！

■開会挨拶

川合代表理事より「企業倒産が増加傾向にあり危惧すべきことだが、同友会はいかなる時も継続できる企業を目指してきた団体が先輩の教訓を含め、知識と体験を交流して企業づくりを進めていきたい。役員研修会では、中山幹事長より企業づくり、地域づくり、同友会づくりが一体となった活動が大切ということ、会員500名になると景色が変わるといった話があった。会員数が多い団体になると周りの評価や期待、役割が変わってくる。役員が同友会や地域のリーダーとなることを目指して頑張りましょう」と挨拶がありました。

■学習会

●コーディネーター:後藤代表理事

冊子「人を生かす経営」の「人を生かす経営とは~中同協『労使見解』作成の経緯と今日的意義~」を読み合わせた後、討論を行いました。

■報告事項

- 1)中同協・第55回定時総会(埼玉)7/13~14 6名参加  
菅原代表理事が、総会では企業変革が喫緊の課題であり、労使見解に基づいているかを再確認すること、地域とかわりを持つことが重要であること、講演では独立行政法人中小企業基盤整備機構の豊厚志理事長より、未来を切り拓くためには4X(BX,DX,EX,GX)と1W(Well-Being)が大切になることを学び、分科会では神奈川同友会がビジョンづくりなどを通して組織を改革してきた報告があり、山形同友会でも参考に進めていきたいと報告しました。
- 2)中同協55期第1回幹事会(埼玉)7/14 3名参加  
菅原代表理事が、議案に対する意見と中同協の幹事としての役割を確認したこと、学んだことの実践、事務局との関係づくり、同友会費に対する考え方について問題提起があったことを報告しました。
- 3)2023年度7月月次報告  
矢作事務局長より報告がありました。
- 4)2023年度7月月次決算報告  
矢作事務局長より報告がありました。

■承認事項(入・退会承認) 4名入会 4名退会 463名

■討議事項

議題1:会費滞納に関する件

半澤専務理事より、会費滞納者の退会申し出に対しては、全額支払って退会となることを基本とし、年払いを希望される場合は前納を条件とすること、何よりも滞納にならないように申し合わせ事項の徹底を図ることが提案され、承認されました。

議題2:役員研修会のまとめ

- 1)参加者数  
●第1講:36名 ●第2講:38名
- 2)成果と課題について  
菅原代表理事が、企業経営と同友会運動を不離一体として取り組むことの重要性、役員の役割、地域づくりの必要性について学んだ役員研修会の成果と課題について報告後、参加者の意見を集約し、次年度につなげていくことを確認しました。

議題3:北海道・東北ブロック支部長地区長交流会について

後藤代表理事より、参加申込状況について報告があり、参加呼びかけを行っていくことを確認しました。タイムスケジュールの説明があり、役割分担について確認しました。

議題4:第20回経営研究集会について

野口実行委員長より、2023年11月29日(水)に開催されることが決まったとの報告と、各支部から委員の選出依頼がありました。

議題5:各委員会・部会より

- 1)組織委員会  
菅原代表理事が、委員会ではSNSのガイドラインの検討を行ったこと、第1回学習会の振り返りではJクレジット制度がこれからのビジネスチャンスにつながることを確認し、増強ではリストの更新状況と各支部の取り組みを共有したことを報告した上で、紹介者のリストアップと更新への協力を依頼しました。
- 2)共同求人委員会

・東北芸術工科大学 説明会 7/25, 26, 27(12社・学生延べ88名参加)  
佐藤委員長より、新たな試みとして就職業界説明会を学生と対話する形で開催して、三日間で12社に対し延べ88名の学生が参加し、生の声を聞く良い機会となったことから、継続して開催していきたいと報告がありました。

3)地域活性化委員会

川合代表理事より、山形大学連携授業の日程と報告者など開催要項の報告がありました。

4)(仮称)地域共生委員会

・訪問学習会 7/6, 18, 25(10名参加)  
平形理事より障害者の生活や現状を知ろうという企画で、(株)こころねの中條社長が経営する多機能型事業所「くじら」を見学し、お話を伺い、障害者支援の現状、支援施設の仕組みや運営について知る機会となったことの報告がありました。

議題6:行政・他機関・団体からの依頼などについて

- 1)(一社)山形県発明協会との包括的連携協定  
川合代表理事が、7月19日に「地域活力の創出に向けた包括的連携協力協定」の締結式を行ったことを報告後、矢作事務局長が協定の具体的進め方と支援内容について説明しました。
- 2)山形県「YAMAGATA bizウーマンキャリア形成応援事業」  
①矢作事務局長より、経営者と県内外の若者との座談会へ庄内地区の経営者推薦依頼があり、玉津理事が担当するとの報告がありました。  
②就労支援インターンシップ参加企業募集  
矢作事務局長が、就職を希望する女性求職者(20歳以上50歳未満)対象で現在40名の女性が登録している事業について説明し、これから参加企業を募集し9月初旬に受け入れ企業を連絡すると報告しました。
- 3)生産カイゼン計画作成支援などの周知依頼の件  
矢作事務局長より周知依頼の説明があり、承認されました。


■その他

- 1)今後の予定について  
・8月22日(木)組織強化・会員増強全国交流会(Zoom)  
・8月23日(水)幹部社員研修第2講(山形ビッグウィング)13:30~  
・8月26日(土)第28期経営指針をつくる会第3講(TISカンファレンスセンター)9:00~  
・8月31日(木)~9月1日(金)2023経営労働問題全国交流会(山口)  
・9月1日(金)中同協・経営労働委員会(山口)  
・9月6日(水)中同協・女性部連絡会(東京)  
・9月7日(木)~8日(金)中同協共同求人・社員共育合同委員会(東京)  
・9月14日(木)~15日(金)第51回青年経営者全国交流会(広島)  
・9月21日(木)~22日(金)北海道東北ブロック支部長・地区長交流会(山形)  
・9月28日(木)第28期経営指針をつくる会第4講(TISカンファレンスセンター)9:00~  
・10月5日(木)新入社員フォローアップ研修(山形流通団体組合館)9:00~  
・10月19日(木)第28期経営指針をつくる会第5講(TISカンファレンスセンター)9:00~  
・10月19日(木)~20日(金)第22回障害者問題全国交流会(愛知)  
・10月26日(木)中同協第2回幹事会(Zoom)  
・11月9日(木)第28期経営指針をつくる会第6講(TISカンファレンスセンター)9:00~  
・11月16日(木)~17日(金)2023共同求人・社員教育活動全国交流会(鹿児島)  
・11月22日(水)幹部社員研修第3講(山形ビッグウィング)13:30~
- 2)今後の常任理事会と理事会について

|          |               |        |                |
|----------|---------------|--------|----------------|
| 第4回常任理事会 | 8月2日(水)16:00  | 第4回理事会 | 8月9日(水)15:00   |
| 第5回常任理事会 | 9月6日(水)16:00  | 第5回理事会 | 9月13日(水)15:00  |
| 第6回常任理事会 | 10月4日(水)16:00 | 第6回理事会 | 10月11日(水)15:00 |

■閉会挨拶

阿部副代表理事より「今回の学習会では、こうあってはならないと背筋が伸びる思いがした。理事会や幹事会にはメリットがあるから参加するものではないが、役員になって良かったと感じるような学べる機会にしていきたい」と挨拶がありました。



**新会員紹介**

すぎもと しゅうへい ◆ **杉本 修平氏** ◆

BOURDERING HOUSE 358  
代表  
ボルダリングジム  
山形支部

すずき まさひこ ◆ **鈴木 雅彦氏** ◆

(株)ニシムラ  
店長  
ファッション・雑貨事業  
寒河江支部

くどう こうた ◆ **工藤 浩太氏** ◆

(株)工藤自動車  
自動車整備・板金・販売  
寒河江支部

さとう よしのり ◆ **佐藤 佳範氏** ◆

(株)sato(さと)  
代表取締役  
障がい福祉サービス運営  
庄内支部・酒田地区

会員変更 ●花専科 代表 佐藤修氏 ⇒ (株)ポタニーズ 代表取締役(山形支部)